

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイSES浜松南校		令和8年 3月			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		スペースを区切りそれぞれのプログラムに沿った活動場所を工夫している	障がい特性を考慮し支援内容の多種多様な活動をもっと増やす事が課題
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	1	職員配置に関しては人手不足も否めないため同法人ないでの非常勤職員の移動による支援	人材確保と職員のスキルアップ
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		利用児の障がい特性に応じてレイアウト変更を取り入れている。	PDCAにより職員間でのミーティングを活性化することが課題
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		毎日の床やトイレの清掃と除菌スプレーによる玩具などの感染症予防対策	職員の感染症予防対策のさらなぬ周知
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		パニック時に相談スペースなどでのクールダウンができるように職員間での共有	限られたスペースの有効化のためさらなるアイデアを話し合う
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		常勤と非常勤職員での勤務時間の違いがあり書面での回覧をまず最初確認を行うようしている。	限られた時間での話し合いをいかにうまく使うかが課題
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			業務改善ではもっと職員間での共有と話し合いが課題である
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎日のミーティングでの意見交換での共有と把握につなげている。	もっと多くの職員会議の時間を作ることが課題である。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2		外部評価はしてない。今後の取り入れることが必要で課題である。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		研修案内などを掲示し積極的に受講を促している。	研修受講を受けるにあたり少ない職員では時間をさくのが課題である。
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	2		支援プログラムに関しては次年度公表に向けて作成途中である。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		職員からニーズを書き出してもらい、保護者との面談なども参考に計画を作成している。	やはり限られた職員での時間的余裕がないのが課題である。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		毎日のミーティングで常に共通理解を深めるため検討を行っている。	個別の中間評価等に時間を設けているが、足りていない。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	1		共有は出来ているが、支援においてはまだまだ課題が多い部分もあり。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		法人内の事業所を併用している児童については、情報を共有できるよう利用日の様子を報告し合っている。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2	2		今後の課題である。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		長期休みの活動プログラム等は姉妹校（浜松校、西校）ともにチームとして立案を行っている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4			利用児の障がいに応じて固定化しないよう工夫する点が課題である。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		浜松校や西校の日々の振り返り等を支援員のグループLINEで共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2	2		モニタリングは行っているが障がい特性や成長にともなう見直しは十分とは言えない。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	3	1		地域交流の活動に関してはまだ課題としてある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	1	利用児童に対しての支援の工夫は、日々相談をしながら検討調整をしている。	実際の支援においては支援力の差があり、研修等の充実が課題である。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1		会議後に内容を共有し、その後の支援にどこまで活かすことが出来るか、課題。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	3		保育所等訪問を利用している場合は、連携もとれるが、なかなか医療や教育との連携は厳しい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	1	特別支援学校の連絡会の情報を共有している。	公立の学校ごとに温度差を感じる。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		児童発達支援事業所との繋がりを大切に就学前の見学なども積極的に行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		4		スーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けてはいない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	1		地域の他のこどもも活動する機会はまだないが、事業所同士の交流など積極的に活動に含めている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		お迎え時や送迎時に日々の状況や気になることを常に心掛けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3		家族支援に関しては十分とは言えず、今後の課題として職員間での話し合いを持っていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		定期的な面談以外にも、こどもの状況によっては頻繁に保護者の相談を受ける体制を取っている。		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4			保護者説明会や、保護者同士の交流会を実施している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		せずニュースを毎月発行して保護者へ行事や活動の様子などをHP共に発信している。		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。		4			地域に関わられた事業運営は図っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1			マニュアルはあるが周知された訓練が行われていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		発作のあるこどもや、服薬の必要なこどもの保護者とは特に情報共有を意識している。		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4				
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4				ヒヤリハットは共有できているが再発防止については多方面の意見も取り入れる事が重要である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4				定期的な委員会を実施している。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4					